



「ねこの手」のご紹介

介護保険では補いきれない
ご高齢者とその家族の「ちょっと困った」を解決

合同会社ねこの手
<https://neconote.xyz>



「合同会社ねこの手」について

創業 2022年3月2日

代表社員 新井隆広

社員2名 有償ボランティアの登録6名

「創業のきっかけ…」

サラリーマン時代に両親と義理母の在宅介護を経験。

在宅介護なので介護保険を利用したサービスで賄える部分も大きかったが、同居している家族がいないと補えないこともたくさんあることも痛感。

介護保険では賄えない生活の部分

独居の方や家族が離れて暮らす高齢者の方のお手伝いが「福祉の便利屋」「家族代行業」としてできないかという思いから創業を決意しました。



～会話で世の中を豊かにする～

福祉、商業、行政など様々な分野と生活者を繋ぐ
ハブとなりながら日々、地域のちょっとした
困りごとを承っています。

ねこの手のロゴマークにはそんな思いを表しました



ねこの手の提供サービス

—まごの手サービス—

電球交換、宛名書き、見守り
瓶の蓋開け、簡易清掃、賞味期限
の確認、朝のゴミ出し、お買い物
などの軽微なお手伝い

5分/100円 (税別) ※30分まで
5分/300円 (税別) ※30分以降

別途出張費 **500円**/1人 (税別)

—助っ人サービス—

草取り、枝の剪定、防草シート敷設
家具移動、片付け、清掃、断捨離
模様替え、など労働を伴うお手伝い

5分/300円 (税別)

別途出張費 **500円**/1人 (税別)

※複数人での対応の場合、人数分の
費用が発生します。

—カスタマイズサービス—

定期訪問が必要、空き家管理など
ご依頼者と相談の上、契約書を締結
ニーズに合わせた対応をしていきま
す。

費用は相談の上、決定します。



—訪問美容—



ご自宅に訪問しカットサービス

介護ベット上で、車いすに乗っ
てなど、ご自宅に伺って美容
サービスを提供いたします。

1回/3,000円 (税別)

別途出張費 **500円**/1人 (税別)

—病院付き添い— —その他付添い—



ご家族の都合がつかない、遠方に
住む子供には頼めない、などの時
にご利用いただけます。カンファ
レンスの内容もご家族に共有いた
します。

1時間/2,000円 (税別)
5分/250円 (税別) ※1時間経過後

別途出張費 **500円**/1人 (税別)

—老人ホームの紹介—

在宅介護に限界を感じたり、急性
期病院を退院するにあたりご自宅
での暮らしが難しくなった方。
ご本人の今までの生活やご予算に
応じた老人ホームをご紹介します。
また入居時、入居後のお
困りごと専門家に繋いでおりま
す。

ご紹介、施設見学、すべて無料
※高住連登録業者です。

～事例紹介～

①創業以来、ご依頼を承っているEさんとのお付き合い

Eさん（83歳）女性
埼玉県内に息子さんがお二人いらっしゃいます。
ご主人が他界されてからはお一人暮らし

「きっかけ」

地域包括支援センターから相談の連絡。

最近、急に歩けなくなって、朝のゴミ出しとかお買い物に行けない。介護保険の申請はしたけれど、すぐには介護保険の認可が決まらないので、介護保険のサービスが始まるまでの間、有償サービスとして支援に入って欲しい。

「サービス提供」

最初の頃は、朝のゴミ出し、お買い物などで関わり始めました。それと歩けなくなった原因追及の為に病院付添い。

要介護2が認定されて、朝のゴミ出しは「ふれあい収集」に移行。お買い物は居宅介護サービスにてヘルパーさんが介入してくれることになりました。

2人の息子さんには迷惑を掛けたく無いという理由から、病院の付添いは以前と変わらず、ねこの手でお手伝い。

- かかりつけ医の地元の病院から上尾中央総合病院を紹介されて検査。「脊柱管狭窄症」と判明し、入院・手術をすることに。
- 入院当日も付き添って欲しいということで、入院手続き、入院準備もお手伝いさせていただき、入院当日を迎える。
初めて、病院にて次男坊さんにご挨拶
- 退院後は、生命保険の請求書類の作成をお手伝いしたり、通院の付添いの依頼、庭の草取り、枝の剪定、カメラ付きインターホンへの交換、お墓参りの付添い、訪問美容お買い物同行など、月に2回ほどのご依頼。



「ポイント」

- 息子さんがお二人いても、頼みづらい
- 近所の友人にもいつも頼めるわけでも無く、やってもらったらお礼はしなくてはならないので気を使う。
- ねこの手は電話1本で日常生活を相談できる。
- 最近では息子さん達からも「ねこの手」さんに頼んだらと言われる。また息子さん達とも、ねこの手が連絡を取れる状態にある安心感。

～事例紹介～

②ほんとうに寂しかったお一人暮らし

Nさん（90歳）男性
東京都内に息子さんがお一人いらっしゃいます。
奥様が他界されてからはお一人暮らし

「きっかけ」

居宅のケアマネージャーさんから相談の連絡。

「サービス提供」

息子さんにガラケーからスマホに買い換えてもらったが、まったく操作がわからずスマホの操作を教えて欲しいという相談が最初の関わりでした。

スマホだと電話を掛けることもできず、受けることもできず、操作方法をスケッチブックに書き出して、覚えてもらう。

電話帳の機能から電話を掛けるところまで是可以できるようになり、ねこの手の連絡先も追加して、反復練習を繰り返す。

- 初回の訪問後に度々、スマホから連絡をいただくようになる。
- 深夜に連絡をいただき、「一人暮らしは寂しい」「もう死にたいんだよ」など。
- ウイスキーが飲みたいから買ってきて欲しいという連絡が多くなる。
ヘルパーさんが毎日入ってはいたが、嗜好品は対応できないので、ねこの手に依頼。
- 週に1度くらいのペースでウイスキーを買っていき、お届けする際にNさんとお喋りしてという関わり方に。
- 私がウイスキーをお届けした翌日に、お風呂で亡くなっていることが確認される。
Nさんとの別れ…。



「ポイント」

- 息子さんとの関係性が良好では無かった。
- 家族との積年の関係が垣間見える
- 老人ホームへの入居も検討していたが、一人の自由さ、不自由さの葛藤があり、決断できなかった。
- 若い頃は自由に自分のやりたいことをしてきたが、気が付けば不自由さと寂しさだけが残る終末期を迎えていた。

まとめ…

本当は家族が支えることができれば一番。
でも核家族化が定着した現代。
心の距離まで遠距離になってしまっています。

ねこの手は「福祉の便利屋」「家族代行業」として
活動しております。

ご清聴ありがとうございました。